

トキ鉄への支援スキームの見直しを 総務常任委員会審査で訴えました

総務常任委員会の決算審査で、私は並行在来線えちトキめき鉄道への支援スキームの見直し問題や原子力防災訓練などをとりあげました。

えちトキめき鉄道は本年5月、運賃を来年4月から平均3割引き上げることを発表しました。私は同社が開業から4年間で収益を当初計画よりも4億円多い42億円をあげながらも、費用については当初計画よりも7億円多い50億5千万にもなっていることをと

りあげ、この背景には想定を上回る鉄道施設の維持補修・設備更新と線路使用料収入の大幅減などがある。大元には創業時の支援スキームに甘さがあったのではないかと質問しました。

これに対して野口副市長は、私の指摘を認め、政府に支援スキームの見直しを求めていくことを表明しました。

原子力防災訓練でも質問

原子力防災訓練については、上



越市が昨年11月、吉川区、柿崎区などで行った第3回原子力防災訓練の総括を求めました。

この訓練では初めてバスによる移動訓練も行っていました。私は、避難行動要支援者の扱

いがどうなったかやバスが当市の避難計画通りに運行できたか、県の広域避難計画との関連はどうであったかなどについて質問しました。

答弁で市の担当者は、「バスの移動は県の広域避難計画でも大きな課題となっている。実際上は市町村がバスを確保し、不足したところは県が出すことになっている。この問題は解決してなく、今後の協議課題だ」とのべました。

私は、「上越市が昨年やった（バス移動の）経験、今年11月に



昨年の訓練でバスに乗車する人たち。吉川区



【ナンテンハギ】再掲。

マメ科の多年草。漢字で「南天菝」と書きます。草丈は50センチほどになります。花期は6月～10月でけっこう長い。春、芽が出たばかりの頃のもの山菜として食べられます。花言葉は、「あふれる愛情」「思案」「内気」など。写真は9月12日、大島区板山にて撮影しました。

やろうとしていることは県内でも貴重だ。実際に体を動かして得たものは行政マンからだけでなく、参加した市民からも意識的に、しっかりと聴いて（県や市の計画に）反映させてほしいと訴えました。

空原防災危機管理部長は、「体験した市民の生の声を市町村研究会や県に届けていきたい」と答弁しました。頑張ってくださいと思います。

私の一般質問は25日の予定

- ◎聞こえにくくて困っている人たちの願い
 - ◎「核のゴミ」の地層処分
 - ◎ナイター設備問題をとりあげます。
- ぜひ傍聴にお出かけください。

はしづめ法一の 活動レポート

No.1926 2019.9.22

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第五七四回

よしたよした

先日の深夜、風呂に入ったときのことです。風呂上がりに、「ふと思い出しました。「よした」という言葉です。」

この「よした」は、ほめるときに使う言葉で、「よくやった」という意味です。わが家では、父がよく使っていました。私がいまでも記憶しているのは、昔、わが家で飼っていた「ニヤンチャン」という名前のネコをほめるときに使っていた「よした」です。

季節は、もう少し遅い、秋が深まったころだったと思います。わが家の「にわ」で稲の脱穀作業をやり、モミが広間の「だて」のなかに入られていたときでした。

居間でご飯を食べていたか、お茶を飲んでいたときのことでした。家族みんながいるところへ「ニヤンチャン」がやってきたのです。それも血がついたネズミを口にくわえていました。

正直言うと、血で汚れたネズミは一時も早くどこかへ持って行ってほしかったのですが、父はネコを怒るところかほめたのです。「よした、よした。えらいど、ニヤン」。その言葉を聞いた「ニヤンチャン」は、少し間をおいて、ネズミをくわえたまま姿を消しました。おそろしく、どこかへ持って行って食べたのだと思います。

このとき、父は、一緒にいたみんなに、「ニヤンは、ネズミを捕まえたことをほめてもらいたくて、やってきたのだ」と言いました。「ニヤンチャン」のそのときの表情、動きを見ていた私たちは、父の言うとおりでだと思いました。

「よした」という言葉を思い出すなかで、改めて、子どもの頃の秋の農作業のことを振り返ることができました。

わが家では九月の半ば過ぎから稲刈りが始まったように記憶しています。手伝い始めたころは手刈りでした。「あねさかぶり」をした母と父が稲刈り鎌を手に、ザツ

ザツザツという音を出しながらリズムよく稲を刈っている様子を見て、私たち兄弟も稲刈りができるよつになりました。

手刈りに慣れてきた頃、バインダーという稲を刈る機械が導入されました。わが家ではヤンマーのバインダーです。一条刈りながら、「ガチャガチャガチャン」という音を立てて稲を刈り、束ねていくそのスピードは人力をはるかに上回るものでした。湿田ではこのバインダーに下駄をはかせて機械が埋まらないようにするだけでなく、刈り取った稲を濡らさないように舟まで用意されていました。

このバインダーを使った稲刈りは、父だけでなく、私もやることになりました。乾いた田んぼでの作業は楽でしたが、湿田での作業はきつく、半日もバインダーを使っていたときは、体はもつぷつたりでしたね。

いまはほとんど姿を消した稲のハサがけ、これも忘れることのできない作業の一つでした。

田んぼで刈った稲は人間が背負うか牛に載せて運ぶ時代が長く続きました。その後、耕耘機で運ぶのが主流となりましたが、ハサがけはずっと続きました。

わが家では、釜平（がまびろ・地名）にハサ場があり、暗くなってからのハサがけではバイクのエンジンをかけ、そのライトを頼りに仕事を進めました。父はどんな仕事をする場合でも、手ぬぐいを使ったねじり鉢巻きをしていましたが、薄暗くなっても、父のねじり鉢巻きさえ見えれば、稲を投げることができました。

機械化が大きく進んだいまでは考えられないことですが、数十年前までの稲作りでは、家族みんなが力を合わせて仕事をやっています。このことは一生忘れることがありません。たまには、父の「よした、よした」という声を聞きたいものです。

高田の花ロードは23日までです

先日、高田の花ロード取材するため、本町4、5丁目周辺を歩きました。

いつも楽しみにしている内山さんの屋上ガーデン、今回もたくさんの花が迎えてくれました。それと2種類の蝶が飛び交っていました。相変わらず、良く管理されていて、感心しました。高田小町では、浦川原出身のNさんをはじめ知っている人と次々と出会い、いろいろなおしゃべりをするのが出来ました。少し足をのびして、坂井亮円さんのさをり織り作品



展ものを覗いてきました。ブルーを主体にした織物のそばで、素敵なミニコンサートが行われていました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月11日(水)	9月18日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.050	0.063
東頸消防署	0.047	0.060
高士分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.053	0.040

映画「記憶にございません」

話題の映画、「記憶にございません」を観てきました。いやー、痛快というか楽しさ満点というか、大いに笑い、楽しめた作品でした。

独裁的で、消費税増税、お友達の大企業優先の政治を行い、人

がとこさん下落している黒田総理の姿はどこかのだれかにそっくりでした。

でも、一時の記憶喪失によって、国民本位の本当の政治のあるべき姿に目覚め、政治を転換していくシナリオは映画ならではのものです。いや、最高！ベリーグッドでした。